

横芝の碑（その七十二）

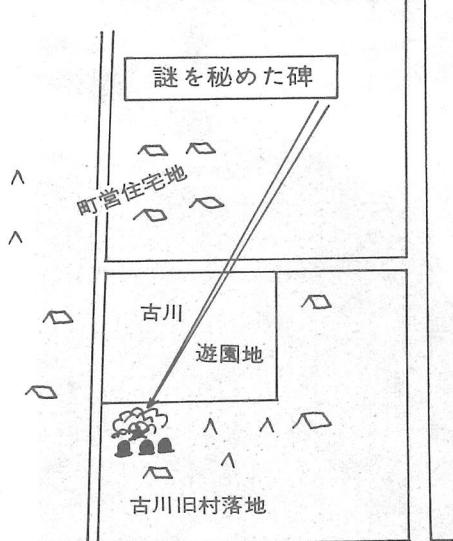
—七百年の昔と元録年間の謎—

古老人の口伝と三つの碑



古老人の口伝と三つの碑

案内略図



横芝町古川の集落は一千年の歴史を持つと語り伝えられています。そして、ここに七百年昔の庚申様が建つてるので取材して見てはどうか、というご連絡を頂いてからも大分経ちます。

確かに古老人の語り伝えによつて建てられたという御本尊創立七百年記念奉造立庚申成就之攸、昭和三十七年建立”という碑は思われる庚申様には元録十七年（一

七〇四）四月建之と刻まれているのです。従つて約二七〇年の昔といふ訳になります。ともあれ、元録年間の庚申様といいますと私が見た庚申様の中では一番古く、是非取材したいと思いつながらも七十年前という古老人の語り伝えと元録十七年が、どう結び付くのかが詳かにならないことは、御紹介もできませんでしたので、庚申様周辺の石像を探ねたり、附近の人々からのお話を纏めたりしてきました。その中に庚申様の傍に隠れる様にして建つてある祠形の石像が、古老人の御本尊ではないか、と気が付いたのです。石祠は半分位欠け

ていますし、磨滅も烈しく、大山、乍、日、吉、神、己、安、午、十二月等の文字を除いては、何れが扁神の七文字を除いては、何れが扁なか作りなのか、又上下の連りも判りません。しかし、庚申様でないことは確かで、この文字から推定される神様は、滋賀大津市に總本社が鎮座する日吉（ひえ）神社ではないかと思われるのです。

国史辞典によれば「日吉神社は日枝（ひえだ）神社とも呼ばれ、東宮に大己貴（おおむち）神、西宮に大山（おおやま）神を祭り、山王信仰の中心として俗に山王權現として名高い。延暦年間（七八〇～八〇六）に僧最澄よつて延暦寺に創設され、一山の守護神として崇られ、一時はこの神輿を担いだ僧兵が朝廷に強訴し、「鴨川の水と僧兵は如何にもならぬ」と天皇を嘆かせる程の勢力を

持つたが、元亀二年（一五七一）織田信長の比叡山攻めに遭い、社殿を焼失し云々」があります。

又安という文字と丁という文字

は年号だと思われるのですが、安

の字の付く年号で午年といいます

と安和三年（九七〇）、弘安五年（一二八二）、安政五年（一八五

八）だけですが、安政五年は元録より後になりますし、或いは安和年間とも考えられます。七百年

昔という語り伝えを尊重しますと、弘安五年、と推定するのが妥当と思われて来るのでです。

庚申様信仰に押された山王權現？

こうして考えて来ますと、弘安五年に建立された山王權現の祠が、江戸時代に入つて庚申信仰の隆盛に押され、何時か祠が建立された昔のみが語り伝えに残り、

さざな栗山の伊藤秀文さんの御協力を頂いたことを申添えます。

文化財審議会委員

本稿取材に当り、古川の鈴木昇

さん

が刻まれています。(3)半分欠け

て真中に建つてゐるのが、日吉

神社（山王様）と思われる祠で

す。

小沢春光氏寄稿



里人は祖先が代々信仰して來た七百年昔の庚申様と信じて崇め、祈願成就を喜び、御利益に感謝し

て古老人の語り伝えを表現したもの

が七百年記念碑なのだと思います。

里人の心中には山王様であれ、

大山昨神であれ、大己貴神であれ、はたまた庚申様であれ、御先祖様が崇拝して来た昔からの神様の祠であることに変りはないのです。

邪心のない、誠の神の心は、古老人の語り伝えを信じ、これを尊崇す